

磐城日報

平市白銀町十一
発行所 磐城日報社
電話（呼）一〇三八番
編集発行人 後藤幸夫
印刷 丸山徳平
毎週水曜日休刊 購読料
一月三十円 一月一円
一ヶ月三十四円 一部一円

中野氏の辞退から

鈴木候補は痛手

中野の票は大竹に……？

中野寅吉氏の知事立候補辞でも前中野氏が得た平市退きよつて結局候補者は大石、双、相三郡の票一万三千、鈴木、平田の三氏となす千七百餘は當然大竹氏に投票いはかぜん縣下を通じられるものと見られ社会て保守陣營の大竹候補に有黨の鈴木候補にとつては全利となつて来たが石城地方が痛撃を受けた形となつた結果

医療保護者は 月五十人以上

金額も十五万円を突破

市社会課では厚生する者は一ヶ月平均五十人省からの指示に基及至七十人となつており主いて二月一日よりとして結核患者の、收容費医療保護状況の調（入院費）その他一般疾病で查を実施するが市内の生活その月額支出は十五万円か困難者でこの適用を受けて二十万円となつてゐる

民生委員講習

郡下三百の委員が

石城、平地区民生委員（児童委員）講習會は来る二十八日午前十時から石城地方事務所會議室で委員約三百名出席のもとに開催縣長生部長並に關係団体長から

に盡すべき任務の重大性を強調するが當日は民生事務担当者並に福係員も列席する

四候補で

町長の椅を争い
小名濱の町長選挙は二十三日の知事選挙當日執行されるが十六日立候補を締切つた結果

水野政次郎（三）駒木根忠三（三）鏡又七（三）立花秀吉（三）の四氏の間で争奪戦を展開

ヒステリから

親子心中を企てた？

父の誠さん涙で語る

（既報）湯本町關船妻キヨさん（三）長男隆さん（三）次男秀男さん（三）で親子三人は十一日湯本驛着午前十時三十分の列車で降車し驛前の小店より焼芋を求め子供にこれを與へて全所におもむきその夜子供を次々に殺して自殺を圖つたものら妻子の悲報は新聞紙上でわかつが外聞が悪く今迄届け石澤茂さんは次男靜雄さん過般より神經衰弱におち出る氣になれなかつたと誠を亡くしたが佛の供養のため

就學猶豫は 至急に手續きを

廿五年度の小学校就學兒童調査に大童の市教育課では就學猶豫兒童即ち就學にたえざる身体傷害及びきよ弱兒童の保護者に対しての醫師の診断書を副へて三月末日迄に出来るだけ早く手續をとるやうと望んでゐる

肥料配 給協議

石城地方事務所管内の各町村を對照した春肥配給協議會は十九日午前十時より市湯殿山で廿五年一月から七月までの割當、事故肥料の處理、價格の改訂等を議題に協議する

郡の供米 完遂今一息

石城地方の供米は平市が逸早く完遂したのに次いで箕輪、永戸、好間、内郷、鹿島、豊間、飯野、渡邊の二町六ヶ村がゴールインし更にゴール間近に迫つてゐるが湯本その他数ヶ町村に及んでゐるが、これらも一兩日中にはかん納する管で正月迄には全部九〇パーセントの遂行率を示すものと見られてゐる

圖畫展覽會

第三で二月五日から三日間 平市第三小学校講堂で来る二月五日より三日間聯合PTA、教育美術研究會主催のもとに小中學生出品の圖畫展覽會を開催する

鈴木唯治氏

前堀江工業會社長鈴木唯治氏（五）は十五日午後一時東北大病院で死去した十九日午後二時四會町海岳寺で告別式を執行

會と催し

石城地方事務所では牛の結核防疫のため十六日から今月末迄郡下各地で検査及防疫注射を行ふ

五風十雨

洋品屋さんが値下げを断行するの、駄菓子屋さんがイオアマを安く賣るのも結局は御時世がそうするよう仕向けたのだが、中には馬鹿の一ツ覺えで値下げなど儲の知つた事やないかと一向に本段の改訂もせず高賣りをしてる商賣人もある。客足がとんと遠くなつてゐるのに氣がつかぬらしい、それでいて御當人の曰く金詰りで品物が賣れぬと今の世は昔と變りな競争時代に還元してゐるのであつて、客に行列を強いていた時代の事を常に頭にこびりつゐる商人は完全に落伍者になつてしまふ、商人は時の動きに常に敏感であらねばならぬ

めと十七日市社会課を訪へ生活に困つての方々へ與へて下さいと千圓を寄託

